

## 御 礼 状

工学部同窓会の皆様

ワクチン開発に少し光が見えてきていますが、皆様におかれましてはご清祥のこととお喜び申し上げます。

コロナ禍により学業を全うする上で困窮を深めている大阪市立大学工学部生・工学研究科院生（以下、工学生）に対し、先の寄附金に加え、今回の募金による寄附と度重なるご高配を賜り深謝申し上げます。

後期授業も始まり、工学部では講義形式で3割、実験実習系で7割の科目で対面授業を取り入れ、校内でも学生達の顔を見かける機会が増えています。学生達も支援制度のお陰で、多くの方に支えられ大学生生活を送っていることを実感し、心強く感じているかと思えます。

「COVID-19 困窮 OCU 工学生支援制度」の11月時点での運用状況は次の通りです。

収入（合計 1470万円）	
民間企業3社	70万円
工学研究科の教育研究奨励寄附金間接経費	500万円
工学部同窓会	900万円（300万円＋今回の600万円）
支給（合計 896万円）	
7月：新規34名に対し、	合計 137万円
8月：新規24名と継続26名に対し、	合計 188万円
9月：新規8名と継続44名に対し、	合計 192万円
10月：新規12名と継続41名に対し、	合計 205万円
11月：新規0名と継続44名に対し、	合計 174万円

支給対象者には毎月状況報告を提出させ、翌月の支給内容を判断しています。学生たちは、徐々にアルバイト収入を増やしたり、各種財団等の奨学金に応募したりと逞しく適応してくれているようです。月毎の新規申請者数も減少し、支給額もある程度一定しており今年度いっぱい運用の目的が立っている状況です。また、経済状況が改善し支援辞退を申し出てくる学生も現れ始めています。『COVID-19 困窮 OCU 工学生支援制度』支援募金』へ寄せられた同窓生からの暖かく心強い支援は工学生にとっては学業を継続する上で心強い後ろ盾になっていきます。改めまして感謝申し上げます。しかし、第三波の到来が報道されるなど、今後冬季に向けて感染症の増加する時期でもあり、安心はできません。今後とも同窓生の皆様にはご指導ご鞭撻、そして、母校を暖かく見守って頂きますようしくお願い申し上げます。

令和2年11月

大阪市立大学大学院  
工学研究科長 長崎 健